



## 「災害とこころのケア」

総看護師長 重 永 康 子



台風14号による病院被災から早いもので1年が経過しました。この間にも、日本ばかりでなく世界各国で地震や洪水など大規模な自然災害が多数発生している。そしてその災害は一瞬にして人のいのちや生活を脅かしている。

災害で犠牲になった人たちの多くは高齢者や身体に障害のある人、病気で避難できず犠牲になった人、情報の入手や発信が困難で犠牲になった人、乳幼児や妊産婦などいわゆる災害時要援護者といわれる人たちである。

先日、「東京国際交流館プラザ平成」で開催された日本災害看護学会―第8回年次大会に組織会員として参加した。大会では災害時要援護者に関する現状と課題を共有するため「情報と避難」、「避難所と暮らし」、「地域と備え」、「こころのケア」の4つのテーマにわかれ、ワークショップが行われた。私が参加した「心のケア」のワークショップでは新潟県中越大震災を体験した2名の方からの報告があった。その一人であるA氏のブログ「小千谷から」の手記の一部を紹介する。

―我が家の4歳になる次男がPTSD（心的外傷後ストレス障害）になった。家族ずっと一緒だったため特に怯える様子もなく過ごしていたのだが、突然来た11月8日（2週間後）の震度4の余震のときにたまたま息子は一人きりであった。泣きじゃくりながら私のもとへ駆け寄り、それ以来息子は私から離れられなくなり、保育園にも登園

できなくなってしまった。その日からこころのケアとの闘いが始まった。ほかの園児が元気であればあるほど落ち込んだ。24時間いっしょにいてやれ、他の子供とよく遊ばせろ、今は災害時とは違うことを伝えろ、と理想論のマニュアルが歯がゆかった。「ずっと四六時中、子供と一緒に狂いそう!!ライフラインも通ってないし片付けも何もできないよ!ひとりになりたいんだよ私は!!」ケアしてほしいのは私自身だったのかもしれない。誰も訪問に来なかった。そんなことは主張しないとわからないからだ。こころのケアホットラインなるものにいちいち電話する人がどれくらいいたのだろうか?―

A氏の手記からは被災者が抱えている不安や悲しみ、つらさ、寂しさ、歯がゆさが切々と伝わり、長期的なこころのケアが必要であることがわかる。

災害は被災者に大きなストレスを与える。そしてそのストレスの程度は災害状況や置かれている環境、被災者自身の性格特性などでも違ってくる。こころのケアは「特別なケアの提供」でなく、一般の生活支援や医療救護と平行して行っていかなければならない。被災者一人ひとりのニーズを吸い上げ、相手の悲しみやつらさを傾聴、共感、受容、支持する事ができる看護師にならなければとあらためて感じた。そして、すべての災害時要援護者や被災者が安心して暮らしていけるように、地域社会全体で支えていく仕組みづくりが必要であると考えます。

# 人工関節手術の進歩と当院での人工関節手術の現状

整形外科リウマチ科 部長 甲斐睦章

整形外科リウマチ科では膝や股関節を中心とした関節外科、リウマチに対する薬物療法・手術療法、骨折などの外傷、骨粗鬆症の治療に力を入れています。近年、膝や股関節の人工関節手術は飛躍的にその手術成績が向上しています。今回、当院での人工関節手術について述べさせていただきます。

当院での手術実績は平成7年より平成17年までに423関節の人工関節手術を行ってきました。平成17年は78関節の手術を行い、今年は8月末ですでに75関節とほぼ昨年の実績に並びました。人工関節手術件数は宮崎市内でトップの症例数を誇ります。また、平成17年よりMIS（最小侵襲手術）による人工関節手術を導入し、術後の痛み軽減、早い機能回復を目指しています。

## <人工関節置換術とは？>

関節を人工物で置き換える手術のことを人工関節置換術といいます。人工関節置換術は障害を受けた関節の機能を回復することを目的とします。現在、体のあらゆる部分の関節置換に人工関節は用いられていますが、この中でもっとも成績の優れている部位は膝関節や股関節で肘関節や肩関節がこれに次ぎます。膝関節や股関節の10年成績（手術をして10年間何の障害もなくすごせる状態）は95%を越えています。最近では20年成績も90%を越えるとの報告もあります。

さて、どのような患者さんが手術を受けているのでしょうか？

- 1) 股関節や膝関節が痛い
- 2) 変形が強い
- 3) 関節がグラグラする
- 4) 関節が曲がっている（膝：O脚やX脚、屈曲変形。股：屈曲や内転変形等）

などの症状があり、薬を服用しても、あるいは杖や装具を使っても疼痛が軽減せず、一人での外出が出来なくなってきた時が手術の良いタイミングです。いよいよ歩けなくなってからでは、筋力の低下や関節の拘縮（関節が硬くなる）で手術後のリハビリテーションが大変になります。対象年齢は60歳から80歳位までの方とされていますが、関節の状態やリウマチの患者さんでは若年者でも適応となります。

最近の人工関節の進歩は目を見張るものがあります。金属やプラスチックなどの材料の改良のみならず、特に膝関節では日本人の生活様式にあうようによく曲がる膝の開発が進んできました。従来の人工膝関節では曲がりはおおよそ120度が限界でしたが、最新機種は155度（正座に近く）曲がる人工関節が開発され、私たちもこの機種を採用し、手術を行っています。残念ながら耐久性の問題より実際に正座はできません（出来る人もいますがしないように指導します）が、深屈曲が可能となったことで低い椅子からの立ち上がりなど日常生活の多くの場面で楽に行動することが可能となりました。

また、新しい手術手技として最小侵襲手術（MIS）という方法がここ数年で普及してきました。これは、小さな創で人工関節を入れる手技ですが、皮膚や筋肉をたくさん切らないため、術後の痛みが少なく機能回復が早いとされています。従来の手術では15~20cm程度皮膚を切っていましたが、MIS手技では8~10cmの皮膚切開で可能となりました。しかし、どの施設でもMIS手技による人工関節手術が出来るわけではありません。技術的に難しい面があります。

私自身、2年前よりMISの技術習得を目指し海外研修に参加して準備を行ってきました。そして平成17年7月より当院でもMISによる人工関節手術を導入しました。さらに平成18年1月よりは後療法を見直し、この方法を本格的にスタートしています。手術の翌日より手術をした関節を動かすはじめ、2~3日目より立つ練習、そして歩行訓練が始まります。入院期間は膝の手術で3週間、股関節は4週間程度で自宅に帰ることが可能となりました。

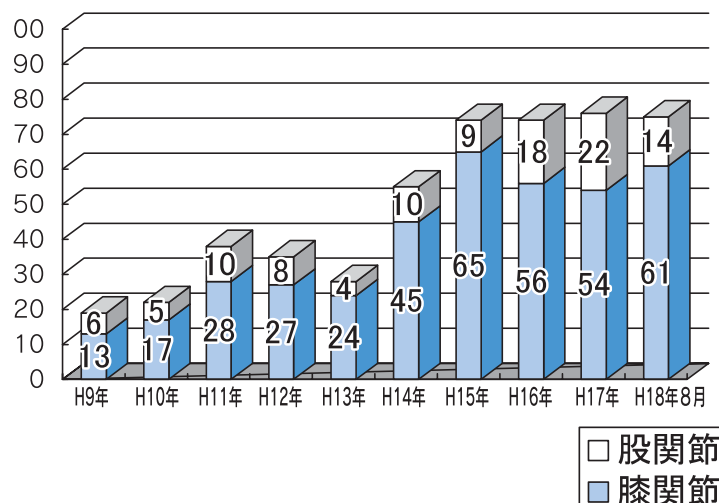
術後3ヶ月もすると、通常の生活（お買い物や散歩）は十分に可能です。術後6ヶ月ほど経過しますとさらに上の生活（旅行など）をエンジョイすることが出来るでしょう。

外来にポスターや人工関節（本物）も展示しています。

股関節や膝の痛み、変形でお悩みの方、歩行や移動動作に関してより良い生活、質の高い生活をお望みの方がいらっしゃいましたらいつでもご相談下さい。

## 当院での人工関節手術実績

平成9年6月より平成18年8月まで



# 「地域連携室」のご紹介

## ○「地域連携室」って何？

以前病院は、それぞれが独立して患者様の治療にあたってきた傾向がありました。しかしこれからの医療は、ひとつの病院で全てを完結するのではなく、それぞれの専門的な機能を発揮して、地域全体で患者様の全人的治療にあたろうという考えに変わってきました。

例えば、普段かかる「かかりつけ医」を〇〇クリニックと決めていただきます。しかし〇〇クリニックには入院のベッドがなかったり、患者様が専門外の病気にかかることもあります。そのときには〇〇クリニックから、治療や入院ができる□□病院を紹介してもらい、受診・入院となります。そして治療が終わったら、□□病院から〇〇クリニックの外来通院に戻っていただく・・・というのが理想とされる医療機関のかかり方です。

そこでクリニック・診療所や病院間には“連携”が必要になってくるのです。国はこれを「地域完結型医療」と言い、推進しています。そしてその連携を担う部署が「地域連携室」なのです。

当院におきましては、2005年7月に「地域連携室」が開設され、2006年4月1日より専任職員が配属となりました。

## ○「地域連携室」では何をしているの？

地域連携室では以下のような活動を行っております。

### ① 地域の医療機関との連絡調整

紹介患者様の受け入れ窓口として、入院・受診のご相談および各種連絡調整を行ないます。

★外来診療・受診方法についての相談や問い合わせ

★リハビリ目的の受診・入院についての相談や問い合わせ

注) 救急や治療目的の連絡・相談は、従来どおり医師にて対応しております

### ② 地域の医療機関への訪問活動

地域の医療機関を訪問し、当院の診療機能のPR、情報収集、退院患者様の受け入れ先開拓を行ないます。得られた情報は、関係職種にフィードバックします。

### ③ 地域連携に関する広報活動

関連部署と協力して、病院パンフレットや診療情報誌の作成・送付を行ないます。

### ④ 連携先医療機関との研修会企画

連携先医療機関との交流を深めるため、勉強会や研修会を企画します。

## ○最後にひとこと

今年4～7月のご相談取扱件数は151件（月平均38.5件）でした。特にリハビリ目的のご相談が多い状況です。

今後も地域医療機関とのパイプ役となり、地域の住民の方々、先生方が当院を利用しやすい環境づくりに努めてまいります。

病院のことでお聞きになりたいことがございましたら、お気軽にお問い合わせください。

## ○地域連携室 連絡先

【直通】 TEL：0985-47-5314

FAX：0985-47-5323 E-Mail：renkei@junwakai.com

室長（兼リハビリ科長） 檜橋 弘喜、専任・医療ソーシャルワーカー みつえ 三枝 香織



# みなさんこんにちは！

新しく来られた先生の紹介をいたします。



**田中 俊一郎** (たなかしゅんいちろう) 年齢33歳

【担当科】耳鼻咽喉科

【出身大学】関西医科大学

【趣味・特技】フットサル

【自己PR】地域の皆様に貢献出来るようがんばります。  
8月1日より睡眠時無呼吸外来を始めました。

## 第2回病院祭

8月27日記念病院1階フロアにおいて、第2回病院祭「潤和ふれあいデー」が開催されました。健康相談や体脂肪測定、血圧測定などを通して地域の方々と交流を深めることができました。

また、午後からはコンサートあり、入院患者様やご家族の皆様も心和むひとときを過ごされました。

来年度も、地域に密着した病院祭を開催したいと思っておりますので、皆様ふるって御参加くださいますようお願いいたします。



「風の会」の方のコンサートは大盛況でした



各セクションに分かれ、パネル展示を行いました



健康相談コーナーでは、各診療科の医師や看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどが、いろいろな質問にお答えすることができました。



無料血液検査コーナーでは、約100名の方が採血を希望されました。検査結果は郵送にて送らせていただきました。

## 記念病院 理念

### 「人間愛」

#### 記念病院 基本方針

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療を提供します。
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践します。
3. チーム医療を推進し、より良い医療を目指します。
4. 豊かな人間性を兼ね備えた医療人を育成します。
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境を作ります。

## あ と が き

### 滝つぼ温泉探訪(北海道、知床)

北の大地、北海道には各地に温泉が点在し、大自然を満喫できる露天風呂も数多くあります。知床半島ウトロも温泉地ですがウトロの奥に、温泉の川が流れ滝つぼが天然の露天風呂となったカムイワツカ湯の滝温泉があります。平成14年9月、北海道一人旅中の私は以前からの願いが叶いここを訪れました。

知床五湖から知床林道を約20分走り、ややぬるめの湯が流れている川を渡った辺りに車を止め、車内で水着と短パンに着替えました。タオルやカメラを背中のナップザックにいれ、足元は使い古した綿靴下といういでたちで岩だらけの川を登って行きました。歩く事20分だんだん足元の湯が温かくなった頃、湯の滝が現れました。

高さ32メートル、幅2メートル、滝つぼがそのまま天然の露天風呂です。湯元は噴煙の上がる硫黄山の中腹で、一帯はイソツツジの花が咲き、この滝はウトロ港発着の知床遊覧船からも見えます。

滝つぼには水着姿の男女10人位が入っていました。私も岩場に荷物を置き仲間入りです。旅行者達と入浴中の写真を撮りあいしばし情報交換、その日は知床峠の熊の湯、羅臼に周りセスキ、相泊(あいどまり)と温泉三昧の一日でした。

もし北海道を旅する機会があれば是非知床の滝つぼ温泉に行ってみてください。きっとご満足いただけると思います。